

## 令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市長 小路小学校 学校協議会

## 1 総括についての評価

総括シートの「本年度の自己評価結果の総括」については実態を反映している。

いじめについては目標数値には達していないものの、高い数値を維持している。学力経年調査の結果については、学力は上昇しており、今後も継続して取り組む必要がある。体力は高い水準を維持している。情報機器の使用状況、働き方改革についても取り組みの成果が出ており、高い数値である。

## 2 年度目標ごとの評価

## 年度目標(1)安全・安心な教育の推進

## 全市共通目標

- 学校で認知したいじめについては100%解消し、「いじめのない学校づくり」は目標に達している。暴力行為もなく、落ち着いた学校生活を送ることができている。
- 経年調査の質問紙では「学校に行くのは楽しいと思いますか」で肯定的に回答した児童の数は目標に達した。不登校児童は、転入生1人で、対策を練り、改善に向け取り組んでいる。

## 学校園の年度目標

- 全教職員が「いじめは絶対に許さない」という強い意志を共有し、一貫した指導を継続することができた。ポジティブ行動支援の考え方を取り入れたことにより、児童が互いの良さを認め合う雰囲気定着し、自己肯定感や学習意欲を向上させることができた。

## 年度目標(2)未来を切り拓くための学力・体力の向上

## 全市共通目標

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」については、目標に達した。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における国語と算数の標準化得点は100を下回った学年があり目標を達成することができなかった。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較したところ、減少させることができなかった学年があり、目標を達成できなかった。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合が80%を下回り、目標を達成できなかった。

## 学校園の年度目標

- 研究教科を今年度から。3～6年生は「総合的読解力」、1, 2年生は「国語」にしたことにより、話し合う場を多く持ち、目標を達成することができた。
- 小学校学力経年調査に過去の問題を分析し、教職員で共通理解を図ったが、授業に十分に反映させることができず、目標を達成できなかった。
- 朝の学習、放課後学習の効果が上がり、全体的には成績が向上したが、目標を達成するには至らなかった。
- 令和7年度の5年生「全国体力・運動能力調査、運動習慣調査」の結果については、男子がすべて市平均を上回り、女子も8種目中5種目で市平均を上回った。しかし、令和7年度の小学校学力経年調査の質問紙の結果は、苦手意識のある児童が多く、目標は達成できなかった。

## 年度目標(3)：学びを支える教育環境の充実

### 全市共通目標

- 児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の90%は達成できず、昨年度より活用する日数が減った。
- 児童のICT活用能力は大きく向上した。
- 「健康障害防止機能確認日」を設けることにより、基準1、基準2をクリアする教職員が増加した。
- 放課後にゆとりを持たせるため、6時間目をカットする日を多く設け、作業する時間を確保した。

### 学校園の年度目標

- 働き方改革に伴う授業時数の減少を実施したため、授業に余裕がなくなり、目標を達成できなかった。
- 児童の学習者用端末の活用能力は上がり、多種多様な使い方ができるようになった。
- 年間授業日数を大幅に削減時、長期休業中に年次休暇を取りやすい環境を整えた。
- 教職員は働き方を意識して、勤務の見直しを自ら行う一方、校務用PCを持ち帰って家庭で仕事をするが多くなっている。
- 学校行事等の関係で、時期による忙しさの波を解消しないと、全時期の時間外勤務の減少は難しい状況である。

## 3 今後の学校運営についての意見

- ・安全・安心な教育について、引き続き学級担任と管理職がすばやく連携し、児童の様子への把握に努めてほしい。対策の継続を願う。
- ・児童の学力の全体的な底上げを目指し、今年度も対策を継続してほしい。
- ・運動能力に関しては、気温上昇による外遊びの制限への対応が必要である。
- ・教職員には、今後も積極的に取り組みをしてほしい。